

# トビウオ通信 (R 元 第 4 号)

<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

## 《令和元年度第 1 回日本海スルメイカ漁況予報》

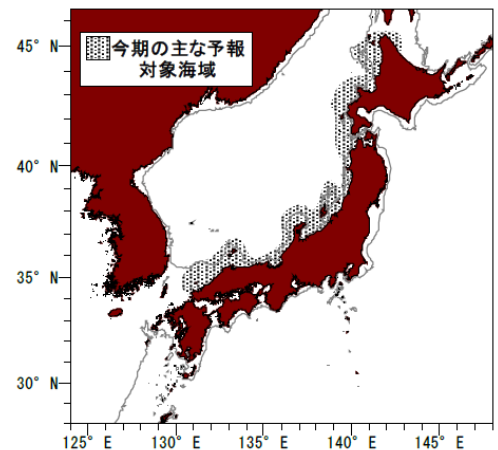
平成 31 年 4 月 26 日に国立研究開発法人水産研究・教育機構（日本海区水産研究所）より「2019 年度第 1 回日本海スルメイカ長期漁況予報 <sup>※1</sup>」が発表されました。今回はその概要と島根県沖でのこれまでのスルメイカ漁況を紹介します。

### 今後の見通し(令和元年 5 月～7 月) のポイント

対象魚種：スルメイカ  
対象海域：日本海沿岸域  
対象漁業：主にいか釣り漁業  
対象魚群：主に秋季発生系群

- (1) 来遊量：前年並で近年平均を下回る。
- (2) 漁期・漁場：主な漁場は本州北部日本海以北で  
漁期は近年同様。

\* 近年は最近 5 年間(平成 26 年～平成 30 年)



### (1) 来遊量

平成 30 年 10 月～11 月に実施された日本海スルメイカ幼生分布調査では、スルメイカの幼生分布量は平成 29 年並みで近年平均を下回る状況でした。また、平成 31 年 4 月に実施された漁期前調査（スルメイカ新規加入量調査）では、今期に漁獲が期待されるサイズのスルメイカの分布量は、不漁であった前年並みで近年平均を下回る状況でした。こうした調査結果から、今期（5 月～7 月）の来遊量は「**不漁であった前年並で近年平均を下回る**」と予測されています。

### (2) 漁期

対馬暖流域における今後（4 月～6 月）の表層水温及び水深 50m の水温が平年よりも「やや高め」（平年は過去 30 年の平均値）で経過すると予測されていることから（平成 31 年度第 1 回日本海漁況予報 <sup>※2</sup>、国立研究開発法人水産研究・教育機構、平成 31 年 4 月 5 日公表）、漁期につい

では、「本州北部日本海以北を中心とする漁場における漁期の開始時期は近年同様」と予測されています。

※1～2は以下をご覧ください。

※1：[http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2019/20190426\\_n/index.html](http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2019/20190426_n/index.html)（水産研究・教育機構のホームページより）

※2：<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2019/20190405/index.html>（水産研究・教育機構のホームページより）

## 島根県沖でのスルメイカ漁況

主要3港（浜田、西郷、恵曇）※3における小型イカ釣（5トン以上30トン未満）によるスルメイカの月別の水揚動向を図1に示しました。平成31年の1月～3月までの水揚量は55トンで、低水準であった前年及び近年平均（過去5年）を大きく下回る漁況で経過しています（前年比42%、近年平均比18%）。

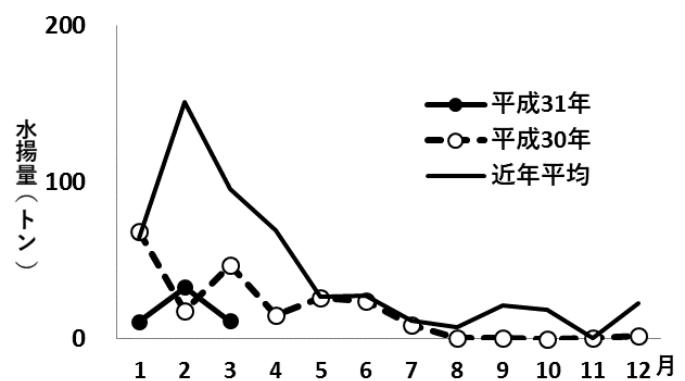


図1：主要3港におけるスルメイカの水揚げ動向

これは、近年、スルメイカの産卵期における海水温等が産卵に適した環境でないため、新規の加入量が少なくなったことが主な要因です。そのため、スルメイカ全体の資源量が減少し、近年、島根県沖への来遊量が減少したと考えられます。ただし、スルメイカは1年魚であるため、スルメイカに適した環境条件が揃えば、今後、スルメイカ資源が回復する可能性もあるため、注視していく必要があります。

※3：浜田は属地、西郷及び恵曇は属人のデータを集計。